

## 家族と共同体に関するバハイ信教からの見解

岩倉 宣子

ここ山口は日本の新しい夜明けを作り出した吉田松陰とその門下生たちを送り出した地であり、さらに人類に新しい世界秩序をもたらし、新しい息吹をもたらしたバハイ信教を受け入れた第一号、および第二号日本人バハイの出身地であります。私は日本が宣戦布告をした数週間後にこの山口に生まれましたが、今日この由緒ある地で開催されるバハイ学術研究会大会にお招きいただき、誠に光栄です。

今年は戦後 50 周年で、いろいろな記念行事が世界各地で開催されました。人は皆一様に、安寧な暮らしに向けて二度とあのような悲惨な戦いをすまいと誓い合っています。人々はみな、安寧を求めています。闘争、苦しみ、破壊のない落ち着いた生活を望んでいます。

にもかかわらず、いまだに世界は非常な混乱の中にあります。それどころか今日、世界はかつて見ないほどの混乱に見舞われています。私たちは今、史上かつて経験したこともないような危険に満ちた社会に生きています。それは、つい先日日本中を震撼させた一連の事件にも明らかですが、私たちはここでこれらの例について一つ一つ述べる必要はないでしょう。私たちはそれらの恐怖や、悲惨さなどについて語るために集まっているのではなく、一体何をどうすれば私たちの望む安寧が保証されるかを確認するために集まっているのですから。

私たちはまず安寧を妨げる障害物は何かをきちんと判定しなければなりません。そして、その障害物を社会から除去するために意識して行動しなければなりません。

そしてその意識は、いま人類を苦しめているさまざまな問題に対する根本的解決へのヴィジョン、人類全体の繁栄、すべての人類を分け隔てなく利する物質的・精神的幸福という、より普遍的なヴィジョンによって活気づけられるべきです。

私の今日のテーマは「社会と家族」となっていますが、私はこの機会を借りすべての人が受容できるより普遍的な、地球規模の話をしてみたいと思います。私たちが、この話をしっかりと理解して下さり、各家庭で、自分の置かれた立場で実地に適用して下さいれば、社会は新しく希望に満ちたものとして改革されるでしょう。家庭は、社会機構の最小単位ですから、家庭がこの新しいヴィジョンに支えらるならそれは社会に反映されるはずで。

それでは、今年 3 月にコペンハーゲンで開催された世界開発サミットで、バハイ国際共同体が世界各国から参加した人々に配布した声明書「人類全体の繁栄」に基づいて、その普遍的なヴィジョンについて考えてみましょう。

二十世紀になって地球はぐんと縮まりました。つまり種々のテクノロジーが距離を克服したのです。いまや私たちは、地球の裏側のできごとをリアル・タイムで把握でき、望むならばただちに反応できます。

いま私たちは、すべてのものが互いに依存しあって生存しているということを実感させられる時代に生きており、今からおよそ 150 年前に、バハイ信教の創始者であり、人類の偉大なる教育者バハオラが述べた「地球はひとつの国であり、人類はその市民」という言葉の真実性をいやおうなしに理解させられつつあります。

そのような中であって私たちは、各自が集団として人類の将来に責任を負っているのだという自覚を強め、人類文明の次の段階に向けて、社会と経済の発展に対する姿勢を根本的に見直すよう迫られています。

その見直しの中で、人類の発展に関する基本的な問題が明らかにされ、人間の本質について幅広く一致した見解が出されなければなりません。それらのいくつかについて考えてみましょう。

まず基本は、私たちの人類の一体性という原則の認識です。私たちは人類全体の運命を切り開くために責任を負うものであり、その意味で一体であるのです。「人類の一体性がしっかりと確立されないかぎり、人類の安寧、平和と安定は達成できない。」と、バハオラは述べています。

この概念は、競争や抑圧を発展のための必要悪として容認する現在社会の流れとはまったく反対の方向性を持つものです。また、この一体性の概念は人類社会の多様性を犠牲にするものではありません。むしろそれは一体性を画一化、つまり一色に塗りつぶすということから区別するものです。

地球規模の文明の基盤は、人類の一体性という概念に基づいた普遍的な法律と社会機構の上に打ち建てられるものです。

しかし、正義に則った社会機構でなければ、人類の一体性という新しい意識を具体化することはできません。正義は、個人にとって真実を偽りから区別するものであり、集団にとっては和合のための基本的な手段です。日常生活において個人は、公正と平等を要求されます。また、集団の意志決定で、ごまかしや党派心を排除する協議の原則が正義です。

ところで協議は、人間関係のシステムを再概念化するためにはならないものです。バハオラは、すべてのことにおいて協議が必要である、協議を通して理解は成熟の域に達すると言っています。この協議というのは、現代社会に広まっている論争とはまったく性格の異なったものです。協議では参加者全員が、全体の利益のために率直さと正直をもって臨み、個人の利益を犠牲にします。

協議は正義を行動にあらわしたものであり、社会的な経済発展の基本となるものです。バハオラは、「人は正義を通さずして自己の真の地位に達成することはできないし、和合なくして力は存在せず、協議なくして繁栄も福利もありえない。」と述べています。

しかし人々の能力は、いまだ地球社会の発展に必要な任務を引き受けるほどには達していません。人々の能力をそのレベルにまで引き上げるためには普遍的教育の普及が必要です。世界の多くの地ではいまだに、読み書きなどの基礎的な教育も受けられない状況があります。

すべての人々が知識を得る機会を与えられ、それによって得た知識を自分たちの生活に活かすことができ初めて、人々は地球社会の発展に必要な任務を引き受けられるほどになります。私たちの課題は、知識を深め、人類の潜在能力を画期的に増大させることにあります。これを可能にするのは宗教と科学の調和以外にありません。

科学的知識や技術の実応用は、道徳的、精神的原則によって調整される必要があります。たとえば、現在の科学と工業技術の発展は、人類全体を潤すほどの物質的資源をもたらすことができるはずなのに、世界の多くはいまなお執拗に続く貧困に悩まされています。なぜなら、それら科学的知識や技術は、人類が真に必要なものとは程遠いことに優先させて使われているからです。

ですから人々が本当の意味での宗教の真理を学び、個人と社会機構の活動の目的は人類への奉仕であるということを知り、新しい精神的概念を示す神聖な源泉を見だし、新しい価値観を打ち建てたら、経済問題にも新たな発展的な解決の道が開けるでしょう。

目下日本でも大きな社会不安のひとつとして騒がれている失業問題についても同様のことが言えます。つまり現代、労働は単に消費の手段としてとらえられているということです。現代の仕組みでは生産と消費と、その結果がいつその生産拡大をもたらす雇用が維持されているのですが、このような機構が、働く人々の気力を失わせていることは明らかです。いま人は、労働を人類への奉仕として、また祈りの形としてとらえる新しい労働倫理を必要としています。ですからここにも宗教と科学の相互作用の原理を適用することができます。

さらに、環境問題にも同様の経済的思考が求められます。人間の欲望のゆえに、自然は無限であるなどと主張することは間違っています。自然について一層精神的、科学的な理解をする必要があります。

「足る」を知る能力、道徳的規律の受容、人としての義務に対する責任感が重んじられる必要があります。これらは宗教の役目ではありますが、過去の妄想と妥協に身をやつし、蘇生させる力を失った抜け殻のような宗教にはこの役は果たせません。

地球的発展を保障するもう一つの原則は、両性の平等です。この原則がすべての分野で実施されることが不可欠です。たとえば経済成長でさえも、女性の洞察力や経験がどれだけ導入されたかにかかっているとと言えます。バハオラは「女性と男性は、神の目には平等であったし、またこれからも平等であり続ける」と述べています。

新しい経済的模範は、人間の相互関係や家族、共同体の中心的役割で男女が互いに経験を分かち合い、理解しあうことを基盤にするものです。

ところで、これほど大規模な変革では、それに必要な権力とそれを行使する権威について考える必要があります。社会変革にとって権力と権威はともに必要ですが、これらの言葉はこれまで考えられていたような概念で使われるのではなく、新しく定義し直されるべきです。つまり権力は、多くの場合他の者を利用する手段として表わされてきましたが、今日このような力は人間のニーズには無用だと言うことが明らかです。それに引き換え、真の力は、意義深い文化的変化を導いたり、社会、個人の生活や性格を変えるということも明らかです。バハオラは、まだ認識されていない和合の力について、「和合の力は偉大で地球全体を照らすことができる」と説明しています。

権威を持つ人々は、和合のために働くことを優先させなければなりません。社会のメンバー間の和合は、選挙運動などの党派闘争によって維持できるものではなく、民主主義をもって維持するものなのです。あらゆるレベルで権威ある地位に選ばれた人々は、バハオラが述べているように、自分たちのことを、全人類の福利のために責任を担うものとしてみなすべきです。

古い世界はいま崩壊の真ただ中であり、人々は先が見えず、混乱しきっています。そして、すっかり無気力になり、希望を失っています。このような中で、以上のような普遍的ヴィジョンを持って日々活動する私たちは、これらの原則をまず家庭で、家族で実践していくことが、最も効果的であるということを知っています。なぜなら、社会の基礎は家族だからです。

私たちを取り巻く環境はこれらのヴィジョンとは、180度違った方向に走っており、その方向へ人類全体を引っ張っています。この腐敗しきった古い秩序を打ち破って、新しい段階に人類を引き上げるには、なまぬるい態度は許されません。

私たちは、万物の創造者がこの人類の新しい文明の夜明けに授けてくださった強大なエネルギーに適した信念と決意を持って、行動するよう求められています。

協議に際しては和合を求め、統合された思考を目指せ。毎朝が、前の夜よりも優れ、次の日は前の日よりも豊かであらんことを。人の価値は奉仕や美徳にあるのであり、富や財産にあるのではない。自らの言葉が空しい空想や現世的欲望から清められるよう留意せよ。また自らの行いが狡猾や、疑惑によって汚されないよう注意せよ。貴重な人生を、邪悪で腐敗した愛着の追求に浪費するな。利己的な目的に労力を費やすな。豊かな時には寛大であれ。窮乏の時には忍耐強くあれ。成功のあとには困難が続き、悲しみの後には喜びが訪れる。老いも若きも、地位の高いものも低いものも等しく怠惰と無気力より身を守り、人類に利益をもたらすことにしっかりとすがれ。不和の種を蒔くことのないよう注意せよ。純粹で輝ける人の心に疑いのいばらを植えることのないよう、注意せよ。

バハオラ

皆さん、世界は私たちの決意ある行動を待っているのです。